文部科学省 地(知)の拠点

地(知)の拠点整備事業

総括報告書＜H25～29＞

とちぎ高齢者共生社会を支える異世代との協働による人材育成

国立大学法人 宇都宮大学

1 本学 COC 事業の概要

1 事業の概要

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）は、自治体と連携して地域の課題解決に取り組む大学を国が支援し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図るものである。本学は、この事業に対し、「とちぎ高齢者共生社会を支える異世代との協働による人材育成事業」を申請し、平成 25 年に文部科学省から採択された。本学が一丸となって、栃木県・宇都宮市・下野新聞社・栃木県社会福祉協議会・宇都宮市社会福祉協議会等と連携して主に教育・研究・社会貢献の 3 つの取組を推進・実施した。

本学の事業の概要は、栃木県、宇都宮市において高齢社会に適応する社会制度・資本の整備・改善と、高齢者が培ってきた地域知の継承・発展が課題であることに鑑み、この課題を解決するために、異世代が繋がり協働による学びの場を形成し、「高齢社会の共生コミュニティ」を支える人材を育成することである。

この普遍的課題に対して、創造的チャレンジをするために具体的には、「異世代 Chain 教育」の実践、「終章コミュニティワーカー」の養成、学士課程カリキュラムの改革、地域志向研究等の推進を実施した。

「異世代 Chain 教育」の実践：異世代との対話や協働を学びの場として、全学生必修の「とちぎ終章学総論」や副専攻プログラム「高齢者共生社会」を実施し、高齢社会を支える汎用性の高い人材を育成する。

「終章コミュニティワーカー」の養成：シニア世代やコミュニティ関係者を中心とした社会人を対象に講座を開設し、高齢者とともにコミュニティを形成する人材を養成する。

学士課程カリキュラムの改革：テーマ別教養教育の推進、21 世紀リテラシー必修科目を創設し、ジェネリックスキルと課題設定・解決のためのデザイン能力を養成する。

地域志向研究等の推進：全学的に高齢社会のコミュニティ形成や高齢・終章世代の暮らしを支える地域課題解決型の研究を推進する。

2　事業の成果

本学の取組は、教育分野では平成 27 年度に全学必修化した「とちぎ終章学総論」に加え、副専攻プログラム（Learning＋1）「高齢者共生社会プログラム」やテーマ別教養「高齢社会を生きる」の学修により、地域の高齢化や高齢者に関する課題を解決する能力の獲得に寄与した。

研究分野では、地域志向教育研究支援事業を推進し、①シラバスの中に地域に関する項目を入れる教員の増加、②自分の専門領域を生かして地域を素材あるいは地域のニーズに対応した地域テーマに関する調査研究を行い、地域を志向する教員の裾野の拡大へとつなげた。

社会貢献分野では、地域における課題である超高齢社会、人口減少社会、無縁社会等の課題を見据えたコミュニティ形成に寄与する人材である終章コミュニティワーカーの養成によって高齢者が暮らしやすいまちづくり活動を推進する人材を養成した。

具体的な取組と成果として、次の 7 つが挙げられる。

「世代間交流」の活用	市民向け講座である「終章コミュニティワーカー養成講座」を学生の履修科目にも設定し、10 代の学生から 70 代の受講者まで幅広い世代で構成される学びの場でのコミュニケーションを行う機会を創出した。こうしたメンバーによるグループディスカッションを通し、受講者がそれぞれに多様な情報や意見を知る機会となり、同時に聴く力及び聴き手にきちんと伝わる説得力のある話し方の習得を促した。
「とちぎ終章学総論」の必修化	平成 27 年度から全学必修化とし、受講者同士及び講師との対話の時間を十分に確保するアクティブ・ラーニング形式で授業を展開した。1 年生全員の必修科目として 1 単位 16 時間の授業を実施することによって、高齢者や高齢社会について考える機会を提供し、全学生に積極的に地域社会における役割を担う意欲を喚起することができた。
テーマ別教養「高齢社会を生きる」の実施	高齢社会に関わる様々なカテゴリーの学問を学び、高齢者共生コミュニティに対する知識を深めるための体制整備を図ることができた。
副専攻プログラム「Learning+1：高齢者共生社会」の開講	学生の主専攻とは別に、高齢者共生社会の構築に向けた専門知識と実践力を身に付けることのできる副専攻プログラムとして、「高齢者共生社会プログラム」を開講した。平成 29 年度までに 96 名の学生が当該プログラムを履修しており、学生が各学部の専門教育だけでは得難い複眼的な知識や視点を身に付けることができる体制を推進することができた。
学びの共有化	学生と社会人が共に学び、対話を実践する機会を提供したことで、双方がそれまで固定的に持っていた見方・考え方を見直す契機となり、物事を多面的に捉える思考が醸成された。
アクティブ・ラーニングの積極的な活用	とちぎ終章学関連 5 科目において、アクティブ・ラーニングで授業を展開したことで、学生の参加意識が高まり、主体的・能動的に意見交換する姿勢や周りと協力・協働する態度が身についた。また、当事者意識の醸成にもつながり、地域の高齢化や高齢者に関する課題を自分の問題として捉え直す視野も養われた。
地域志向教育研究支援事業の推進	地域志向教育研究支援事業を展開することにより、栃木県が有する地域課題の解決に寄与できたことに加え、本事業で得られた成果を教育の場で教材等として活用することにより、研究と教育の有機的な好循環が生じた。

2 教育
地域志向科目「とちぎ終章学」の展開

本事業の教育分野においては、地域志向科目として下記の「とちぎ終章学」関連科目を開講した。

1 とちぎ終章学総論

「とちぎ終章学総論」はとちぎ終章学関連科目におけるコア科目であり、とちぎ終章学を学ぶうえで基本となる科目として展開した。

栃木の高齢社会や高齢者の有り様を学ぶために、学外ゲスト講師を中心としたオムニバス形式で実施した。平成26年度は試行的に選択科目として実施した。平成27年度以降は1年次必修の基盤教育リテラシー科目として開講し、地域で暮らす高齢者が抱える生活課題と社会の高齢化により生じる地域課題を学び、それらの解決方策を検討した。

1年次必修科目として、後期の前半（第1～8週）と後半（第9～15週及び定期試験期間）の原則毎週火曜日にそれぞれ4クラスずつ、合計8クラス開講し、学生は所属する学部・学科等で指定されたクラスで受講した。また、総合系科目としても開講し、平成26年度以前の入学者の受講にも対応した（平成27年度～）。

本科目は、高齢社会を支えるキーパーソンとして栃木県内で豊富な活動実践を有するゲスト講師と学生との対話によって展開され、同時に連携機関である栃木県（講師派遣）及び宇都宮市（認知症サポーター養成講座実施の調整）の支援を受けて行われた。このような人材や機関との連携により、当該授業におけるアクティブ・ラーニングの推進と地元自治体との協働体制の構築にも寄与する取組を実施した。

授業では、毎回振り返りカードに印象に残ったことや意見・感想等の記述を求め、学生の気づきを確認した。次回の授業のはじめの10分間を「前回の授業の振り返り」として設定し、前回の授業内容の確認と特筆した学生の振り返りを発表した。その際、学生との情報共有に加え、振り返りに対するコメントを授業では触れなかった内容にも関連した情報を加えて提供することで、学生にとって復習と理解の広がりを持てるように心がけた。このようなフィードバックを実施することで、学生の振り返りにも、回を重ねるごとに変化がみられるようになった。自分の意見だけではなく、違う学生の意見を聴くことで、自分の考えを再考・整理する姿勢が見受けられた。多様な学生の考えや意見があるということ

を改めて感じることで、超高齢社会についての課題や現実を広く把握し、その改善のために自らがどう役割を持てるかを考え、高齢者と共に生きる態度が醸成された。

2　とちぎ終章学特講

「とちぎ終章学特講」は、学生が高齢社会や高齢者の有り様をより発展的に学ぶことのできる基盤教育科目に位置づけて実施した。平成 28 年度からは、地域デザイン科学部 1 年次の必修科目になった（他学部学生も選択科目として受講することができる）。

本学教職員や自治体職員等によるオムニバス形式で実施し、それぞれの専門分野から高齢社会にアプローチすることにより、高齢社会・高齢者に関する今日的課題について、学生に対して幅広く奥深い情報提供をすることができた。

3　終章を支える社会資源

「終章を支える社会資源」では、高齢社会・高齢者にまつわる多様な制度やサービスについて、県内外の事例を通じて「終章」を取り巻く社会課題を学び、その解決の方策を検討した。学外ゲスト講師によるオムニバス形式で展開し、地域で生きる一人の市民として、多様な社会資源を正しく理解し、課題解決に必要なスキルを身に付けることを促進した。

3 研究
地域志向教育研究支援事業の展開

本事業における研究分野として、本学の多くの教員が地域に目を向け、その地域課題を解決するための研究及び教育を発展・貢献できるよう、大学が研究活動を支援する「地域志向教育研究支援事業」を平成 26 年度から平成 29 年度にわたって実施した。本学の教員がそれぞれの専門領域の中で、栃木県、あるいは栃木県民、県内の自治体をテーマとする採択課題は、本学すべての学部・研究科からの申請があった。本支援事業が開始した平成 26 年度は 20 件、以降、平成 27 年度は 17 件、平成 28 年度は 20 件、平成 29 年度は 28 件で、合計 85 件の研究課題を採択した。

平成 26 年度から 29 年度までの採択課題一覧を掲載する。

1 平成 26 年度 採択課題一覧

No.	所属	職名	氏名	研究課題
1	国際学部	教授	中村　祐司	高齢者による企業経営・起業・コミュニティビジネス活動と世代間の相互活力をめぐる実証研究
2		准教授	清水奈名子	福島原発事故による避難と高齢者：孤立化する高齢世帯の聞き取り調査を中心として
3		教授	田巻　松雄	栃木県における『地域包括ケアシステム』構築のための研究：ソーシャルワーカーとケアマネジャーの役割に注目して
4	教育学部	教授	上田　高嘉	ミヤコタナゴを通した地域志向教育研究
5		教授	渡辺　浩行	「山上げ祭」（外で見る歌舞伎）の地域活用
6		准教授	艮　香織	栃木県における高齢女性のライフスタイルの現状
7	工学研究科	准教授	安森　亮雄	建築ストック活用による旧街道集落の持続的再生手法：宇都宮市徳次郎町西根地区を対象として
8		准教授	横尾　昇剛	奥日光湯元地区における地産地消型エネルギーシステム導入による環境先進地区形成に関する調査研究
9		助教	佐藤　栄治	高齢者の日常生活圏域に関する定量的評価と必要施策の検討
10		教授	三橋　伸夫	栃木県高根沢町における地域包括ケアシステム構築に向けた実践的取り組み
11	農学部	講師	守山　拓弥	農村地域における生物の保全と生物の利活用を両立したエコツーリズムシステムの開発
12		教授	秋山　満	人口減少社会下における農業再生方向に関する研究
13		教授	長尾　慶和	生殖工学技術による新たな盲導犬繁殖・育成システムの確立と普及啓蒙活動の推進による栃木県盲導犬普及率の向上
14		准教授	田村　孝浩	高齢就農者の農作業事故を防止する除草技術の開発・普及に向けた課題の析出
15		教授	飯郷　雅之	バイオテクノロジーを活用した地域活性化：那珂川産アユの攻撃行動の分子機構解析から地域活性化，人材育成へ
16		教授	平井　英明	那珂川町イノシシ肉加工施設における産業廃棄物の堆肥化に関する研究
17		准教授	房　相佑	野菜づくりによる農村と都市での健康的生活のための多世代連携の促進
18		准教授	石栗　太	高齢者社会に対応した木造住宅のための栃木県産材の質的向上に関する研究

19		准教授	有賀　一広	「みかも千年の森づくり会」との連携による高齢者共生社会の形成
20	地域連携教育研究センター	准教授	高橋　俊守	高齢者への聞き取りによる里山地域資源調査手法の確立：里山フットパスの導入に向けて

2　平成 27 年度 採択課題一覧

No.	所属	職名	氏名	研究課題
1	国際学部	教授	田巻　松雄	外国人生徒の大学進学に関する実態および希望調査
2		教授	中村　祐司	高齢者の“マイクロ起業”を通じた社会活力への貢献に関する研究
3		准教授	清水奈名子	栃木県北被災地域における市民活動の検証：子育て世代と高齢世帯の連携を中心として
4	教育学部	教授	長谷川万由美	地域課題解決に向けたドラムサークルによるチームビルディングの実証的研究
5		教授	上田　高嘉	地域住民との保全活動を通したイシガイ科淡水産二枚貝類の生理・生態調査
6		教授	松居誠一郎	持続可能な里山と農村社会のための実践活動に関する研究
7	工学研究科	教授	大森　宣暁	少子高齢社会における買い物アクセシビリティ向上施策の検討に関する研究
8		教授	三橋　伸夫	地域施設再編時の高齢者施設・サービスの複合拠点化に関する研究
9		准教授	安森　亮雄	建築ストック活用による旧街道集落の持続的再生手法：宇都宮市芦沼地区を対象として
10		准教授	横尾　昇剛	とちぎにおける地産地消型エネルギーを活かした環境先進地区形成に関する調査研究
11		准教授	石川　智治	結城紬の持つ豊かな感性的特長の明確化とその発信技術の開発
12	農学部	准教授	房　相佑	野菜と健康を軸とした農業経済と都市生活のネットワーク形成
13		教授	飯郷　雅之	バイオテクノロジーを活用した地域活性化：温泉トラフグの生産技術高度化と人材育成
14		准教授	菱沼　竜男	宇都宮市内の教育機関を対象とした食育の実態調査（食育とライフサイクル思考を組み合わせた教育プログラム開発に向けて）
15		講師	守山　拓弥	ウェブサイト上で地域の生き物を観察できるシステムを構築し、閲覧者に農作物を販売するという新たなコミュニティビジネスの試行的構築
16		教授	長尾　慶和	新しい補助犬繁殖技術の確立と障害者福祉への理解促進による地域の福祉力向上
17		助教	福森　理加	放牧酪農を通じた地域活性化：放牧乳の風味特性解析とそれを活かした加工法の開発

3　平成 28 年度 採択課題一覧

No.	所属	職名	氏名	研究課題
1	地域デザイン科学部	教授	中村　祐司	地域社会における高齢者の活力貢献についての研究
2		教授	髙橋　俊守	栃木県における里山の文化的景観の地図化と地域資源としての活用
3		准教授	中川　敦	栃木県における遠距離介護のケア責任帰属に関する会話分析的研究

4		准教授	三田妃路佳	農業政策と農協の機能変化に関する研究
5		教授	三橋　伸夫	農村地域におけるグリーンツーリズム・ネットワークの構築手法
6		准教授	安森　亮雄	地方都市商店街の活性化に向けた道路空間の居場所づくりに関する研究
7		准教授	佐藤　栄治	生活環境，地域の多様性に配慮した公営住宅のリノベーション手法
8		准教授	横尾　昇剛	地域資源としての温泉熱を活かした環境と健康のまちづくり
9		助教	大嶽　陽徳	近代日本のローカルアーキテクト・更田時蔵が設計した建物の歴史的価値に関する研究
10		教授	山岡　暁	栃木県の建設産業が有する技術力を国際展開するための課題分析
11		助教	長田　哲平	中心市街地における歩行者・自転車の通行実態の定量分析に関する研究
12	国際学部	教授	田巻　松雄	外国人生徒の大学進学に関する実態および希望調査
13	教育学部	教授	長谷川万由美	ドラムサークルを用いたグループワークファシリテーションの実践と検証
14	工学研究科	講師	堀尾　佳以	高齢者を支えるコミュニティ作りとアプリ：地域社会連携の「見える化」
15	農学部	教授	平井　英明	那須烏山市中山間地域産ゆうだい21の高付加価値化と古民家での販売戦略
16		教授	飯郷　雅之	休耕田における水産養殖の新展開から目指す地域特産品開発と地域活性化
17		准教授	菱沼　竜男	食育とライフサイクル思考を組み合わせた教育プログラムの開発
18		教授	長尾　慶和	地域の盲導犬育成施設と連携した新規盲導犬繁殖技術の開発と地域への普及啓蒙
19	地域連携教育研究センター	准教授	佐々木英和	地域ニーズの把握方法を洗練するための多角的研究：特に地域特性を浮き彫りにする手法の開発をめざして
20	バイオサイエンス教育研究センター	准教授	鈴木　智大	宇都宮大学生まれの高機能性野菜の有効成分評価

4　平成 29 年度 採択課題一覧

No.	所属	職名	氏名	研究課題
1	地域デザイン科学部	教授	大森　玲子	大学生と地域人財との交流・協業プラットホームの構築
2		教授	中村　祐司	地域社会共生の先駆者に学ぶ：世代間の価値の共有
3		准教授	中川　敦	栃木県における高齢者介護のコミュニケーション改善のための応用会話分析的研究
4		准教授	若園雄志郎	地域資源を活用した社会貢献教育プログラムの開発
5		教授	横尾　昇剛	とちぎの環境資源と自転車を活用した地域の再創生
6		准教授	佐藤　栄治	大容量データ分析に基づく医療・介護サービス提供体制の検討
7		准教授	安森　亮雄	地方都市商店街の活性化に向けたオープンカフェの実証的研究
8		助教	糸井川高穂	全国屈指の暑熱地域の高齢者の熱中症予防のための情報設計法の構築
9		助教	大嶽　陽徳	近代日本のローカルアーキテクト・更田時蔵が設計した建物の歴史的価値に関する研究：主要建築作品の実地調査を通して

10		教授	山岡　暁	栃木県の建設産業が有する技術力の課題分析と国際展開支援
11	国際学部	准教授	清水奈名子	福島原発事故による避難者聞き取り調査：避難指示解除後の課題
12		准教授	戚　傑	高齢者と留学生とのシェアハウスによる多世代交流・多文化共生促進効果に関する調査研究
13	教育学部	教授	長谷川万由美	ドラムサークルを用いた「音楽を通したまちづくり」推進の実践と検証
14		教授	溜池　善裕	複式学級をもつ小規模校の少人数学習指導改善等に関する研究
15		准教授	松村　啓子	里山環境の整備と地域資源活用をめざす教育実践活動の構築：茂木町入郷地区を事例に
16	教育学研究科	准教授	原田　浩司	へき地複式校における発達障害児の専門的支援と高齢者を含む地域サポートシステム
17	農学部	講師	黒倉　健	芳賀地域特産生薬「ミシマサイコ」新品種・栽培法の開発
18		教授	福井えみ子	遺伝子解析と細胞機能制御の併用による乳用牛の受胎率向上
19		教授	飯郷　雅之	矢板市における生物多様性に関する環境教育研究調査
20		准教授	菱沼　竜男	ライフサイクル思考を取り込んだ食と農の環境教育プログラムの開発と実践
21		准教授	守山　拓弥	伝統的な水田漁撈の復元と、都市農村交流型イベントコンテンツでの活用を通じた伝承方法の検討
22		准教授	田村　孝浩	栃木県産米を利用した米菓開発による地域経済の活性化
23		准教授	有賀　一広	宇都宮市における低コスト技術による持続的な林業経営に関する調査研究
24		助教	林　宇一	宇大演習林材を中心とした地域材の流通動向分析
25		教授	長尾　慶和	絶滅危惧される日本在来種「口之島牛」の人口繁殖プロジェクト
26	地域連携教育研究センター	教授	佐々木英和	地域活動に対する住民の積極性が生じる諸条件についての実証的研究：主に栃木県さくら市の学習ニーズ調査を二次分析することを手がかりとして
27	バイオサイエンス教育研究センター	准教授	宮川　一志	生態的防除を目指したアリ類の生活史特性を司る分子機構の解明
28	教職センター	教授	瓦井　千尋	児童・生徒に対するより良い教育環境の整備と学校教育の充実について

4 社会貢献
終章コミュニティワーカー養成講座の実施

本事業における社会貢献分野では、「終章コミュニティワーカー養成講座」を 2 期にわたって開講した。本講座は、高齢者の特質や生活、介護に関する基礎的知識を持ち、終章世代を中心とした高齢者に係わる人や施設を有機的に連携させつつ、高齢者が暮らしやすいまちづくり活動を推進する人材を養成することを目的に実施した。

	〈第 1 期〉	〈第 2 期〉
開催期間	平成 26 年 10 月 4 日（土）～ 平成 27 年 9 月 12 日（土）	平成 28 年 9 月 24 日（土）～ 平成 29 年 2 月 11 日（土）
プログラムの構成	とちぎ終章学関連 5 科目（とちぎ終章学総論・特講、終章を支える社会資源、とちぎ終章学演習Ⅰ・Ⅱ）の履修により修了。	コア科目（とちぎ終章学演習Ⅰ・Ⅱ）の履修により修了。 コア科目＋オプション科目（とちぎ終章学総論・特講、終章を支える社会資源）の履修及び学外調査のレポート提出により学校教育法に定める履修証明書発行。
受講者数/修了者数	22 名/21 名（このほか上記 5 科目をすべて履修した学生 1 名）	19 名/15 名

1 終章コミュニティワーカー養成講座〈第 1 期〉

第 1 期生の受講者は、30 代から 70 代までで構成され、高齢者向けサロンの運営や各種福祉ボランティア、民生委員など様々な立場の方が参加した。

講座前半（26 年 10 月～27 年 2 月）は、座学を中心に実施し、高齢化や高齢者に関わる問題について広く取り扱った。講師陣も社会課題の第一線で活動する実践者や本学教員がオムニバス形式で教壇に立ち、各専門領域から講義を実施した。

講座後半（27 年 4 月～9 月）は、演習を中心に実施し、コミュニティワークの手法を用いて、①コミュニティ・アセスメント（地域踏査・診断）、②プログラミング（地域課題解決の企画づくり）を実施した。チームで特定地域の地域分析や現地訪問を繰り返しての地域課題の抽出、解決方策の立案を行い、問題状況の把握や分析する技術に加

え、計画化し、実行していく技術もあわせて修得し、終章コミュニティワーカーとして、地域でのまちづくり活動を実践する場の提供を行った。

第 1 期では、「地域の中でキラキラ輝いている人と出会う」をテーマに、宇都宮市社会福祉協議会の協力のもと、宇都宮市や上三川町で先駆的に地域活動している 25 名の方をゲストスピーカーとして招き、地域活動への経験を共有することに注力した。

講座最終日は各グループで企画した地域課題を解決するプログラムを発表した。

【地域課題を解決するプログラム〈第 1 期〉】

グループ名	対象市町・地区	設定した地域課題	テーマ	プログラム名
星☆ひかり	那須町 芦野地区	世代間の交流が難しい	たのしく交流できる場をつくる！	宿題カフェ （夏休みの宿題お手伝い）
Miz シャーロット	高根沢町 全域	高齢者の見守り体制が整っていない	団地内のコミュニケーションを活性化し、高齢者も安心して住みよいまちをつくろう	私たちは家族です （支え愛・助け愛訓練）
ここにきな	宇都宮市 中央地区	高齢者の生活全般を支えるチカラが弱い	まちぐるみで高齢者の生活支援を！	中央おたすけネット
GO! GO! IKEA	栃木市 大平地区	自治会活動の機能低下	『少子超高齢社会』における自治会活動を“活性化”したい	萌え萌え乙女塾♥
フューチャーズ	茂木町 逆川地区	集える場所（居場所）が少ない	地域に集える居場所づくり	ゆずもカフェ （Citron・café）

2　終章コミュニティワーカー養成講座〈第 2 期〉

第 2 期の受講者は、60 歳代が全体の 7 割を占めたものの、20 歳代から 70 歳代まで幅広く構成され、高齢者施設役職員、自営業、自治体職員、主婦など様々な立場の方が参加した。

講座は、地域で実践を行うためのスキルやマインドを学ぶための演習を行った。他己紹介や地域の「人」とのコミュニケーションに関する対人援助技術を提供し、地域への入り方や対話の手法について講義するとともに、地域踏査・診断を行う際の意識的な活用手段の学習として地域特性・社会資源・地域課題の基礎情報について把握し、地域課題を正しく認識・理解するために必要なスキルを講義した。

また、実践現場から学ぶことを目的に宇都宮市御幸が原地区を訪問し、地域行事である「第 14 回御幸が原地域まつり」に参加したり、日光市湯西川地区のまちあるきを行ったりした。

第 2 期では、先輩にあたる第 1 期修了生との交流を積極的に行った。第 1 期修了生をゲストに招き、実践事例を報告することで、「先輩」との対話を通して、地域における実践をイメージする場を提供した。

講師や先輩との対話を通して、プレゼンテーションの準備をすすめ、プログラミング（課題解決の企画づくり）の発表会を実施した。グループ発表は、発表 20 分、質疑応答 10 分とし、これまでの成果を披露した。

発表後には、修了証授与式を開催し、15 名が当講座を修了した。引き続き第 1 期修了生との交流タイムを設け、終章コミュニティワーカー1 期生と 2 期生が合同で自分たちの役割を再確認した。最後に、全体の振り返りを行い、決意表明として各受講生一人ずつ講座の学びを振り返り、自らの思いを語る中で終章コミュニティワーカーとしての実践の第一歩を踏み出すための今後の活動の指針とした。

【地域課題を解決するプログラム〈第 2 期〉】

グループ名	対象市町・地区	設定した地域課題	テーマ	プログラム名
「いと」の会	宇都宮市 田原地区	集まる場所がない	伝統芸能で地域を活性化する	獅子舞で絆深める地域の和
チームおおるり	上三川町 明治地区	中学生・高校生が参加する地域活動の場がない	コミュニティセンター（コミセン）活動の主体的人的資源減少に対応すべく、新たな資源を開発したい	えっへん！お父さん！ -アウトドア サバイバル教室-
チームこうちゃん	日光市 清滝地区	見守り体制ができていない	和楽の里の精神を継承するために	和楽の里 いきいき・ワクワク活動

3 終章コミュニティワーカーによる「終章の会」

終章コミュニティワーカー養成講座修了者が継続して情報交換を行ったり、それぞれの地域活動への相互協力体制を構築したりするために立ち上げた「終章の会」の活動を平成 27 年 10 月から平成 29 年 3 月までに 14 回にわたって実施した。

2 ヶ月に 1 回のペースで開催され、講座での学びと経験を活かした地域での活動が県内各地で展開され、修了者からは多方面にわたる報告が行われた。

5 全体
シンポジウム・会議・刊行物

1 シンポジウムの開催

●大学 COC キックオフシンポジウム「未来をデザインする力を育む宇都宮大学へ」
～学生がとちぎの高齢社会を学ぶ意味～

平成 26 年 1 月 10 日（金）に本学大学会館多目的ホールにて、「未来をデザインする力を育む宇都宮大学へ」と題したシンポジウムを開催した。

学生約 80 名を含め約 360 名が参加した。平成 25 年度の事業採択を受け、本学が地域とつながり、新しい課題に立ち向かっていく人材を育成することを広く知ってもらうことを趣旨に、学生がとちぎの高齢社会を学ぶ意味について検討した。高齢化がさらに進行する現実を前に、豊かで幸せな未来をデザインできるのか、学生の意識改革、地域社会との連携が生む効果などの注目が集まるなか、「とちぎ終章学」が地域と共に連携しながら展開され、高齢者問題に強く、そして優しい学生を養成すること、また自分や身近な人の終章について生き方を含めて考えることが高齢社会を学ぶ上で、未来を切り開く力につながっていくことが示唆された。

●COC／COC＋シンポジウム「地域の担い手の育成と大学の役割」
～宇都宮大学「地（知）の拠点」事業のこれまでとこれから～

平成 29 年 9 月 26 日（火）に本学大学会館多目的ホールにて、「地域の担い手の育成と大学の役割」と題したシンポジウムを開催した。

約 60 名の参加者があり、全学必修科目「とちぎ終章学総論」の実践報告、「終章コミュニティワーカー養成講座」修了生活動報告があり、COC 事業の取組に対する成果と課題を広く共有することで、高齢化問題をはじめとする地域課題の解決に資する人材像とその育成における大学の役割について検討した。

また、COC＋事業の取組である「とちぎを知る」ガイダンスや新たな全学必修科目「とちぎ仕事学」についても紹介し、COC から COC＋への連続性や発展性について周知した。

2 各種会議の開催

事業の推進を図るため、学外との連携体制を整備し、地（知）の拠点整備事業円卓会議 7 回、同運営会議 9 回、同アドバイザー会議 17 回、同外部評価会議 5 回を事業期間中にそれぞれ実施した。なお、平成 27 年度からは「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に関する事項も含めることとした（アドバイザー会議を除く）。

円卓会議は、高齢化の進展や人口減少など社会システムの転換が求められる中で、地域

と大学が更に連携を深め、地域の課題解決の役割を担う人材の育成を通じて、すべての世代にとって快適な地域社会を創り上げていくための討議を行った。

運営会議では、各種の事業実施計画やその執行、事業成果報告、組織的協力体制の整備などについて審議した。

アドバイザー会議では、とちぎ終章学関連カリキュラムや終章コミュニティワーカー養成プログラムの企画立案及び運営原案作成に関することなどについて協議し、事業の効果的・効率的執行を行った。

外部評価会議では、地（知）の拠点整備事業の改善及び目的を達成するための評価を受けた。

3 主な刊行物一覧

平成 25 年度　地（知）の拠点整備事業　事業成果報告書
平成 26 年度　地（知）の拠点整備事業　事業成果報告書
平成 27 年度　地（知）の拠点整備事業　事業成果報告書（地域志向教育研究支援事業報告書を含む）
平成 26 年度　地（知）の拠点整備事業　地域志向教育研究支援事業報告書
平成 28 年度　地（知）の拠点整備事業　地域志向教育研究支援事業報告書
平成 29 年度　地（知）の拠点整備事業　地域志向教育研究支援事業報告書（刊行予定）
終章コミュニティワーカー養成講座〈第 1 期〉成果報告集
終章コミュニティワーカー養成講座〈第 2 期〉成果報告集

宇都宮大学 地（知）の拠点整備事業 総括報告書

平成 25～29 年度

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」

とちぎ高齢者共生社会を支える異世代との協働による人材育成

2018 年 3 月

宇都宮大学地域連携教育研究センター
（とちぎ終章学センター）

宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY